

# 平成19年度 学校経営の改革方針

三重県立南伊勢高等学校南島校舎

目指す学校像（基本理念）

## 南伊勢高等学校の目指す学校像の基本理念

「生徒に自信を、保護者に安心を、地域に信頼を」

「生徒に自信を、保護者に安心を、地域に信頼を」を目指す学校像の基本理念の中心に据え、校舎制の教育方針である「鍛えよう心身、育もう知性、磨こう感性～『生きる力』のトライアングル」のもと、校舎間のネットワークを積極的に活用し、小規模校のメリットを生かしながら一人ひとりを大切にした教育を推進する。

また、生徒にとって「安全で安心できる学校づくり」を推進するとともに、近い将来、職業人として自立・自律できるように「生きる力」「生き抜く力」を培うことを目標とする。

さらに地域連携を一層推進するとともに、学校における文化力を高め、豊かな心と感性を育み、地域社会の絆と基盤づくりを目指して、生徒一人ひとりに潜在する自発性、多様性、持続性に留意しながら、人間力、地域力、想像力を総合的に高めていく。

このことより、地域に支えられ、地域とともに発展する「地域の学校」として、南伊勢高校の在り方を再検討しながら、将来にわたって存続する学校を確立する。

南島校舎は今年度をもって閉校となる。一言で言えば、一つの学校の歴史の幕をよい形で下ろすことが、今年度本校舎教育活動の一番の眼目となる。

具体的には、最後の生徒たちのこの一年間の学校生活をできるかぎり充実したものとして保障することである。つまり、授業・部活動・学校行事等々の学校生活を構成する諸要素を、極少人数という悪条件の下にあっても、内容の充実したものとして提供することであり、煎じ詰めれば、3年生はその進路希望の実現を、2年生は平成20年度からの円滑な南勢校舎合流の実現を図ることである。

### 現状と課題

- 1．新入生はなく、2学年だけであり、しかも2年生7名、3年生17名という極めて少人数であることがすべての前提となる。この「制約」の中で、授業、部活動や学校行事などを行わなければならない。
- 2．3年生は本校舎での卒業を希望し、本校舎最後の卒業生となる。
- 3．2年生は来年度南勢校舎に合流する。そのため、今年度は週1回（金曜日）南勢校舎に通学し授業を受ける。
- 4．進学を希望して真面目に学習している者がある一方で、自らの目標が明確でないものがある。また、生徒間の学力差は大きい。
- 5．基本的な生活習慣の確立が不十分で、マナーに欠けたり、人とのコミュニケーションがう

まくとれない生徒がいる。

- 6．南島校舎後に備え、次の用途に供することが可能となるよう、備品等の処分を進める必要がある。

### 中長期的な重点目標

南島校舎は平成19年度に募集停止としたので、の「現状と課題」を踏まえての「本年度の行動計画」を以下に記述する。

### 本年度の行動計画

#### 1．「総掛かり」指導

1) 生徒指導であれ、進路指導であれ、すべての局面でスタッフ全員が共通の認識に立って「総掛かり」で指導に当たる。

職員会議の場を中心に、情報交換、情報提供を行う。

#### 2．校舎制の活用

1) 校舎制により、生徒の関心意欲に応じた多様な学習や社会体験、生徒同士の切磋琢磨の機会を拡大させるなど、三校舎の中できわだって小規模な本校舎の短所を補う。また、校舎間の意思疎通を図る。

進路指導部による三校合同AO入試・推薦入試対策講座、就職試験対策講座を実施する。また、基礎学力テスト、一般常識テスト・作文、就職模試・作文を三校舎合同で実施する。

体育祭、文化祭など生徒会行事や遠足などの学校行事を機会に、生徒会や学年レベルでの交流を実施する。

2年生の週1回の南勢校舎への通学（試行的合流活動）が円滑に進行するよう、南勢校舎との連絡・連携を深めつつ、様々に配慮する。

関連作業部会と委員会をさらに活用する。

#### 3．地域との交流

1) 地域社会とのつながりや交流を深め、開かれた学校を目指すとともに、社会の中で豊かに生きる力を育成する。

図書館の地域開放をさらに推進し、年間延べ利用者数30名を目指す。

授業公開週間を設定して、保護者等に日常的な教育活動をみてもらう。

地方広報誌などを活用して、様々な情報を地域に発信する。

文化祭・体育祭等の学校行事への地域住民や小中学生の参加を呼びかけ、体育祭見学者20名以上、文化祭見学者150名以上を目指す。

地域社会の教育力を活用する。

#### 4．教科指導の充実

1) 授業規律を確立し、生徒にとってわかりやすい授業を行うことにより、学習意欲を高め基礎学力の定着に取り組む。

チャイムがなったら、すぐ授業のできる態勢をとるため、個人カードの活用を徹底する。朝の読書を継続し、授業に臨む気持ちと姿勢を落ち着かせるとともに、知識や視野を広

め、進んで読書に向かう契機とする。

3年生の授業編成を、より進路希望に沿ったものにするなど、さらに工夫する。

基礎学力定着のための課題・小テストを検討する。

基礎学力テスト：2年2回

一般常識テスト・作文：2・3年各1回

2) 教科指導力の向上を図り、進学希望者等への学力補充に取り組む。

授業に対する生徒対象のアンケート調査を毎学期実施して、実態の把握と改善をおこない、生徒の理解度70%以上を目指す。

現職教育で教科指導力の向上について検討する。

他校舎の教員と授業に関する情報交換等の交流を1回以上実施する。

夏期休業中に進学希望者の補習を5講座以上実施する。

3) 各種検定に関する支援を行う。

漢字検定、英語検定、情報関連検定等に向けた支援学習を実施し、検定合格者の促進を図る。

5. 生徒指導の充実

1) 人権、健康や命を大切にできる精神を養うとともに、いじめや差別のない学校を目指す。

人権講話等を実施して、生徒の人権意識の確立と定着を図る。

人権LHRの充実を図る。

外部講師による人権・同和教育の現職教育を実施する。

生徒対象のアンケートを実施して検証する。

保健講話を1回以上実施して、健康や命の大切さを指導する。

スクールカウンセラーと生徒との面談を設定し、教育相談の充実を図る。同時に、関係諸機関との連携を図る。

2) 基本的な生活習慣の確立と規則・校則を守る習慣の定着を図る。

P T A総会や懇談会、P T A通信において保護者に説明を行い、理解と協力を求める。

また、地域住民とも連携する。

服装・頭髪指導を月1回おこない、事後指導も充実させる。

交通安全指導、バス停での指導を月1回行う。

地元中学校との生徒指導に関する連絡協議会を2回開催する。

校舎間の(とりわけ南勢校舎との)指導基準を調整する。

6. 進路指導の充実

1) キャリア教育を進め勤労観や職業観を身につけさせ、自己啓発とその伸長を促進し、希望実現と自己実現に努める。

卒業生との懇談会を実施して、自己の進路に対する意識を高める。

外部講師の講話による進路ガイダンスを実施する。

「進路ニュース」を積極的に発行し、生徒・保護者・教職員への情報提供に努める。

保護者と生徒について、これまで以上に進路意識の啓蒙を図る。

2) 生徒の実態や適性、希望等に基づいた進路指導を行い、進路先の確保を図る。

進路希望者について、100%以上の就労と進学を目指す。

地元企業視察研修を実施する。

全教職員による面接指導を実施する。

地元等で求人開拓を行う。

進学希望者対象に学力補充のための補習講座を夏季休業中に実施する。

## 7．特別活動の工夫

1) 積極的に部活動や学校行事へ参加させ、活動の活性化を図り、意欲と協調性を身につけさせることを目指す。

生徒の部活動加入を奨励し、全員加入制とし、活動の活性化を目指す。

少人数であっても、充実感の得られる部活動を工夫する。

南島校舎最後の体育祭や文化祭が思い出深いものとなるよう、地域の参画・サポートを得るなど工夫し実施する。

## 8．危機管理と防災

1) 関係機関と緊密な連携を図りながら危機管理体制の構築と推進に取り組み、生徒の安心安全を確保するとともに、生徒の危機管理意識、とりわけ防災意識を育成する。

生徒にとって安全で安心できる学校づくりのため、関係機関などと緊密に連携し、危機管理体制を構築する。

危機管理マニュアルの検証をする。

生徒の安全への意識と生命を尊重する心を育成し、自己の健康管理への習慣を養成する。防災訓練を充実させ、生徒に、当地域に住む者としての、基本的防災意識と知識を獲得させる。

## 9．学校経営品質

1) 学校経営品質の取り組みを進め、本校舎最後の一年の課題解決を図る。

(少人数故) 基本的に全員参加の形で種々の関連する取り組みを進める。

学校経営品質に関する認識をより深めてもらうため、教職員への情報提供を行う。